

第 2 回 定 例 会

---

---

# 議会改革検討会会議記録

---

---

令和元年6月28日

# 会 議 記 録

会 議 区 分	議会改革検討会	
開 催 年 月 日	令和元年6月28日	開 議 午前11時09分 散 会 午後 0時02分
場 所	苫小牧市議会 議会大会議室	
出 席 者	代 表 者	矢嶋会長、池田団長、松尾代表、松井代表、 小野寺団長、桜井会長、 触沢議員
	代理出席者	—————
	正・副議長	金澤議長、藤田副議長
欠 席 者	—————	
説 明 員	—————	
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢主幹、能代副主幹、  小坂主査、高尾主査	
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり	

●議長（金澤俊） ただいまから議会改革検討会を開会いたします。

---

●議長（金澤俊） 本日の案件はお手元に配付の会議案のとおりであります。  
お手元に資料として資料 1 を配付させていただいておりますので、御確認をお願いします。

---

●議長（金澤俊） 最初に、本日の検討会の進め方でございます。

6月12日開催の議会改革検討会におきまして、今期の検討項目を決定するため、各会派から御意見をお伺いいたしました。その際、改選前からの引継ぎ事項や新たに追加すべき項目などについて様々な御意見がございましたので、一旦整理し、後日正副議長案をお示しすることとしておりました。

本日の検討会では、検討項目における正副議長案の御説明を行い、各会派の御意見を伺いながら検討項目を決定したいと考えております。

今回の検討会は、そのような進め方でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきます。

---

●議長（金澤俊） お手元の資料 1、議会改革検討会検討項目についてを御覧ください。

資料の上段は、6月12日開催の議会改革検討会において各会派からいただいた意見を踏まえ、正副議長案をお示ししたものでございます。また、資料の下段は、検討会において、その他会派から出された意見としてまとめたものでございます。

さきの検討会におきまして、改選前からの引継ぎ事項や新たに追加すべき項目などについての御意見を各会派から様々ないただきました。正副議長としましても、各会派からの御意見を全て組み入れたいとは思いましたが、2年後の中間人事までに結論を出せるよう、スピード感を持って、できるところはすぐにでも取りかかろうと思ひ、そういう思いをまず基本とし、正副議長案については大きく4項目としたところでございます。

それでは、資料上段の正副議長案について、藤田副議長から御説明させていただきます。

●副議長（藤田広美） 最初に、議会基本条例については改選前からの引継ぎ事項

でもあり、全会派から積極的な取組について御意見をいただいておりますことから、検討項目として上げさせていただきます。

内容については、1点目として、全員協議会の位置づけについてですが、議員間討論を含めた手法についての御意見が出されておりました。2点目としては、広報広聴の充実について。こちらの定例記者会見につきましては、さきの検討会において6月定例会より実施することが決定しておりますが、ほかに傍聴者アンケートの実施や市民との意見交換についての御意見も出されておりました。3点目として、条例の研修については、さきの検討会におきまして7月9日に実施することを決定しております。

次に、議員定数・報酬についてでございますが、こちらも改選前からの引継ぎ事項であり、全会派から議論することについては賛同をいただいております。また、新たな候補者のためにも早めの検討についての意見も出されておりましたことから、検討項目として上げさせていただきます。

次に、投票率の向上に向けての取組についてでございますが、こちらは今回の市議会議員選挙の投票率の低下に対し、議会として対応することについての御意見もあり、新たな検討項目として追加をさせていただきます。

なお、同日選挙の取扱いについては、さきの検討会におきまして取扱いについて各会派にお持ち帰りいただいておりますが、投票率の向上に向けての取組の一環として協議、検討してはいかがかと考えました。

最後に、議会のICT化の推進についてでございますが、こちらは改選前からの引継ぎ事項であり、全会派から議論することについては賛同をいただいております。また、実務者会議の設置やタブレット導入等についての御意見もあり、それも踏まえ検討項目として上げさせていただきます。

以上、大きく4項目につきまして御提案させていただきましたが、正副議長としましては、2年後の中間人事までに結論を出せるようスピード感を持って、優先順位を特につけずに、できるところはすぐにでも取りかかろうという思いを基に考えさせていただきます。

次に、資料下段にその他会派から出された意見を掲載しておりますが、議長選挙の在り方について、総合開発特別委員会及び安全・安心及び市民ホールに関する特別委員会の映像配信について、常任委員会の複数所属についてにつきましては、否定するものではございませんが、先ほどもお話しいたしました、2年後の中間人事までに結論を出せるようスピード感を持って、できるところはすぐにでも取りかかろうという思いから、まずはこのような整理をさせていただきましたので、御了承いただければと思います。

●議長（金澤俊） 説明は以上でございます。

それでは、各会派の御意見をお伺いしたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） ただいま副議長さんから説明いただきましたので、まず根本的な、基本的な考え方はこれでよろしいかと思えます。

そして、何と云っても議会基本条例、これが私たちにとっての憲法みたいなものですから、これにしっかりと、ちゃんと実務として、具体的にきちんと文章だけでなく、きちんとこれについて具体的に手法をきちんと決めて、市民の方からも議会基本条例をつくったことによって開かれた議会だというふうに市民の皆さんに認識をいただけるような具体的な行動だとか、その機会だとか、そういうことを設けていただければいいのかなと思っておりますので、議会基本条例、これがまず真っ先に重要なことではないかなと。それによってまた下段にある部分も、この中でこれが影響して下段のほうのこともいい方向にいくのではないかなと思っております。それから議員定数につきましては、やはり全員協議会の中でやっていただければなと思っておりますし、投票率の向上につきましても、議会基本条例に具体的に取組めば、多くの市民の皆様方が市議会に関心を持っていただけるということで、それによって投票率の向上を図ると、こういったことにもつながるのではないかなと思っておりますので、今おおむね副議長さんの提案で賛同したいと思います。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） うちも上の4つについては、例えば全員協議会の位置づけとか、今日午後からも全員協議会が開催をされたり、広報のほうも、今日になりますか、定例記者会見、正副議長の。それと条例の研修も7月9日ということで、できるものをどんどん決めていきますので、ただうちとしては、2つ目の傍聴者アンケート、これは前回に案をつくっていただきましたけれども、うちは見て、おおむねこれでいいでしょうというような思いがあります。最終的には正副議長の中で微調整をしていただいて、もう9月からスタートしてほしいと、もうやることをやりましょうと、だだっとならないでということがあります。

あと、議員定数・報酬、それから投票率の向上については、これは継続で、さらに時間をかけてということがあります。

あと、ICT化については、この前も言ったように副議長を中心として実務者会議を設置して、各会派から人を人選してもらって、ここに出ているWi-Fiにしてもタブレット、その他もろもろ、できるところからどんどん決めてほしいという思いがあります。

それと下の3つについては他党派から、これはこの前もちょっとありましたけれども、うちとしては実は2番目の特別委員会の配信というのはぜひお願いしたいのですが、これもいろいろな話があって、会場の問題、それから金銭が1,000万円かかるという話があったり、うちとしてはおおむね1日にちを延ばしてもやるべきだと、市民に開かれた議会という意味ではぜひ1つでも多くの議員が関わるものは配信をお願いしたいというふうに思っております。

話を戻しますけれども、今日このように時間をつくっていただいていますから、先ほどのアンケートについても事前に配られていますので、各党派のほうで意見を出してもらって、できれば今日もう決めてしまいたいと、それが皆さんも思っている、どんどんできるところからというふうに思いますので、形にしたいというふうに思いますので、以上です。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 正副議長案、お示しをいただきました。党派としても、ここに載せられている検討項目についてはおおむね賛同いたしたいというふうに思っていますが、議会基本条例の中の傍聴者アンケートについては議論を深めたのですが、必要に応じて項目を追加していかななくてはならないというふうにも考えていますし、また今後も1回きりではなくて1年間継続をして、このアンケートを進めていくのか、はたまた試行なのかという意見もありました。具体的に話をすると、1年間かけてやっていく中で、いろいろな課題とかも出てくると思うのです。そういった部分を集約して、アンケートを本格的なものにしていけたらなというふうな意見もありまして、また、回答率の場面もそうです。一番ちょっとシビアに考えているのが、最後のアンケートの案も出たのですが、議会について御意見があったら記入してくださいということもありましたが、ここに様々な意見が恐らく記載をされてくるのだろうというふうに思っているのですが、そこをどういうふうに処理をしていけばいいか、またそこをどういうふうに反映させていけばいいかというところも課題として上げられるのかなというふうに思うので、そこはこの議会改革の中で深い議論をさせていただけたらなというふうに思っています。

また議員定数・報酬については皆さん一致をされていますので、こちらもこの改革検討会で議論を進めていけたらというふうに思っています。

あと投票率の関係も同様です。

また議会のICT化の推進についてなのですが、ここは中身に関してはやはり実務者会議の中で様々に議論を重ねて、課題もありますし、前回もメリットとデメリットの話もさせていただきました。こういったところもこの実務者会議の中でブラッシュ

アップを図りながら前進をさせていけたらなというのが私たちの考え方です。

また、下段の3項目ございます。特に私たちから提案をさせていただいた映像配信については、さきにも事務局のほうから丁寧に説明をしてくださったのですが、やはり費用面に関してもいろいろなハードルがあるのかなというふうに受け止めています。そこはもう少し他都市の事例も含めて検証するべきだというふうに考えていますし、我々も提案できるようにちょっと勉強を重ねたいと思っています。

私たちは以上の考え方を持って賛同させていただきたいと思います。

最後になりますが、やはり議長や副議長もおっしゃったとおり、この2年間の中間人事の中でスピード感を持って改革を進めていくということは我々も賛同できますので、併せてお伝えします。

以上です。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 正副議長案についてはおおむね理解をいたします。

それでは具体的にちょっと会派の考え方を申し伝えたいと思いますけれども、全員協議会の位置づけについては、手法も含めて具体的な検討に入るべきだというふうに思っています。

それと広報広聴の充実の関係では、傍聴者アンケート、定例記者会見は本日举行されるということですからそれは結構です。傍聴者アンケートなのですけれども、アンケート期間の問題、そしてその結果をどうやって活用するかというのが大切なところがありますので、この結果を議員に参考配付をするということのみではなくて、きちんと議論する場所をつくっていく。それが全員協議会の場になるのかどうなのかということも含めて検討していければというふうに思っております。

それと市民との意見交換の手法でございます。議会報告会の関係で、前任期ではなかなかうまくいっていない自治体が多いのでということで否定的な意見も多かったかなというふうに思っておりますけれども、私どもはなるべくなら改善も加えて継続されている自治体、先進事例も出てきておりますので、こういったことも考えながら検討を進めるべきだという立場でございますし、前任期の中での前議長が特におっしゃってました常任委員会と関係団体、関係組合、そういった市内の団体等との意見交換会、こういったことがすぐできるという意味では着手しやすい取組だというふうに思いますので、こういうところから始めてはどうかなというふうには思っております。

条例の研修会、7月9日に実施の予定でございますけれども、この中で議事進行とか動議の取扱いについても研修をしていただけないという項目に入れていただいております。

ますので、ぜひケーススタディーといいますか事例研修みたいな形でやっていただければ、より深く、新人議員もおりますので、理解が深まるかなというふうに思っておりますので、この決定についても申し添えたいというふうに思っております。

議員定数・報酬の関係でございますけれども、これについても参考人の制度とかそういう制度がありますので、そういったものを活用しながら、例えば推進、反対、両意見があると思っておりますけれども、中間的な立場で、例えばその全国市議会議長会の専門職員さんみたいな方をお招きしながら研修会を一度して、本格的な議論に入るといったことはいいのではないかなというふうな考え方を持っております。

それと投票率の向上に向けての取組は、まさにこれが全員協議会での全員討論、議員間討論に適したテーマではないかなというふうに思っておりますので、そういった場所づくりをしながら同日選挙も含めた議員間討論もできればというふうに思っております。

それと、議会のICT化の推進でございますけれども、実務者会議の設置、座長が副議長というお話もありましたので、前任期のように議会基本条例を設定したような、ああいったことでワーキングチームをつくって進めていただければというふうに思っております。

それと、その他の会派から出された意見の中で、私どもが提案させていただいておりました議長選挙の在り方についてでございますが、これは先ほど副議長のほうから、否定はしないが上記4項目を優先してというお話でございましたけれども、既に全国の市の40%、814市のうちの340市がこの取組を導入しているという観点からもありますし、そう時間をかけて検討するということが、できることからやるという部類の範疇に入るテーマではないかなというふうに私は理解をしております、4項目を優先していただくということは正副議長案の提案どおりで結構でございますけれども、その中でも議論の余地を残していただける、その他の協議の中でこういった議論ができていければなというふうに思っているところでございます。

以上です。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） うちの会派としましても、正副議長案の中間人事までに4項目を精力的に議論していくという問題、そして3項目を第2段的に構えさせていただいているという提案については賛同したいと思います。

その上で若干の会派の意見を述べさせていただきたいと思うのですが、まず議会条例については、開かれた議会、議会に親しんでもらうということがこの条例の一番の柱になると思っておりますので、これを進めるに当たってアンケートというのは大変いい提

案だと思っています。ただ、傍聴に来なければこのアンケートに参加できませんので、以前議会運営委員会で視察に行った際に、庁舎内のロビーのところに議会への声を聞くというアンケートを設置していたところもありましたので、そういうものも参考に苦小牧でもやっていけばいいのではないかなと思っています。

もう一つ、傍聴ということを考えて、平日、日中と考えると限られてくると思っています。土日だとか休日開催ということも大事な要素ではないのかなと思っています。ただ、そうすると今度は職員さんたちの時間外が発生してしまいますので、そこにまた矛盾も起きてきますので、ここをどう整理するかということも考えながら議論のテーブルにあげていきたいなと思っておりました。

あとは、定数・報酬などについても議論することは構わないと思っておりませんが、議会改革における議員定数というのと、あと、割と議員定数を削減しようという議論が先行しがちなのですけれども、私たちは議会改革が定数削減とは思っていないという立場がありますので、そういう意見も踏まえて議論していきたいなと思っています。

3番目の投票率の向上についてなのですが、これは議会基本条例と大きくリンクしていく問題なので、まさにこの投票率を上げていくということが市民に関心を持っていただくということとイコールにつながっていくと思いますので、議会基本条例の様々な取組が、この投票率向上につながっていくだろうと思っています。そこで別項目にしなくてもいいのではないかなというぐらい思っています。

ただ、括弧づけの同日選挙の検討ということなのですが、私はこの同日選挙ということ投票率向上の前提で議論するということは否定的な意見を持っております。もう前回改選前にもう議論を尽くし結論を出した課題だと思っていますので、また議論のテーブルにのせるということが本当に正しいやり方なのだろうか、議会の総意として国に制度改正などを求めていこうということで国に意見も上げておりますので、それでこの苦小牧市議会の姿勢を示していると私は思っておりますので、同日選挙の検討をなぜもう一度始めるのだろうかというちょっと疑問もあります。

ただ、投票率向上に向けてという取組は大いにしていきたいと思いますので、同日選挙をすることを前提にということの議論は疑問があるということ述べてさせていただきます。

あとICT化については、実務者会議を設置ということは賛同いたします。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 正副議長案には基本的には賛成をいたします。

議会基本条例は、つくったときに皆さんで言っていたように基本的なことを決めたということですので、これから運営をしていく中でいろいろと課題も出てくるのだろうなど。それを今ここで出せと言われても、今後やる中で出てくるものだろうと思いますので出せませんが、そういうものに対処したり何かするのも、いろいろな検討をしていくものがあるのではないかなというふうに思っています。そういう中で幾つか例を挙げておりますが、アンケートについては私も先日いただいたもので、あれでいいのではないかと思います。あれはあくまでも傍聴に来た人にとすると。傍聴に来るような人は投票にも行っているような、ある意味では意識が若干高い人だと思えます。ですから、あのようなアンケートは傍聴した方にこれからもずっと続けて取っていただいて、そのほかに、やはり例えば投票に行かない人はどういうふうに考えているのだろうか、市民にくまなくアンケートはどこかの段階で1回きちんと取らなければいけないのではないかなというふうに思っております。着払いのはがきを広報につけるとか、何かの形でそういうことを考えたらいいのではないかなというふうに思っています。

それから、議員の定数や報酬について前半2年間で決めるということは、少なくとも議員の定数はそういう必要があるだろうというふうに思っています。報酬についてはいつも言っていますので今回あえて申し上げませんが、投票率の向上に向けての取組について（同日選挙の検討など）と書いていますが、こういうふうにと書くと、どうしても同日選挙の検討がまず出てくるというふうになって、そうではなくて、やはり投票率の向上ということをきちんと議論しなければならないと思います。私は投票率が今低いということだけを見て悪いのかというと、例えば企業選挙や何かで、大きい企業が下請の企業に枠をかける。それで金銭的なつながりでそういうものに従わなければならないというような企業選挙がだんだん効かなくなってきた、そういう意味で投票に行かないという人が出ているとすれば、それは一つの仮定の話で、悪いとばかりは言えないのではないかなというふうに思っています。

ですから、そういうことや何かをきちんと考える上でのことの中の一つとして同日選挙の検討もあるのかなというふうに思っていますが、ここにこういう括弧書きでわざわざ書く必要はないというふうに思っています。

それから、非常に長いけれども、特別委員会の映像配信について、いろいろお金がかかるという話がありました。やはり我々は少なくとも大幅にお金をかけて改革をするというよりも、なるべくお金をかけない中でやっぴいこうというのが趣旨ですので、例えば会期が1日延びても、もしくは過去には委員会を、午前中に常任委員会、午後に特別委員会とやっていたこともありますから、そういういろいろな手法を考える中

で、そういうものを発信する方向で、しかしながらどうすればお金が一番かからなくて済むかなというようなことを考えてやるべきなのではないかというふうに思っています。

おおむね会派の考えとしてはそういうようなところでは。

それと、常任委員会の複数所属もそうなのですが、私はそれは非常に検討するべきだと思いますが、果たして今の4つの委員会がいいのかどうかと、3つがいいのか、ひょっとしたら私は5つがいいと思っていますが、そういうことも検討していただきたいと思っています。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 正副議長案に賛同いたします。2年後の改選まで、この案をきっちり答えが出るように私も勉強していきたいと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。ただいま各会派の御意見をいただきました。おおむね各会派とも、副議長から説明させていただきましたけれども、正副議長案並びにその他会派から出された意見、これを議会改革検討項目とするということについては賛同いただいたと思います。

この中で、今各会派でちょっと意見が提案したことについて分かれた部分がありましたけれども、投票率の向上の部分の同日選挙についてであります。これについては後ほどちょっと論点として改めて伺いたいと思いますが、この場で決定していける部分についてだけまずは進めさせていただきたいというふうに思います。これは確認も含めてでございますけれども、まず全体的にはこの項目でいいということでもありますけれども、さきの検討会においてICT化、今皆さん触れていただきましたが、この推進については実務者会議の設置ということについて各会派に持ち帰りをいただいて協議していただくことになっておりました。この点については、今皆さん、もう既に発言をされておりますが、実務者会議を設置するという点については賛同いただけるということでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきます。

それから、先ほど傍聴者アンケートについても、その中身についても若干皆さんに御意見いただきながら発言をいただきましたけれども、公明党議員団さんから強く、9月定例会からはもう実施をするべきだというようなことでのお話もございました。傍聴者アンケートについては、内容的にはまだ時間がありますので、様々御意見を今いただきましたし、この先もアンケート項目等々につきましては聞く機会はあるか

と思いますが、まずこの9月定例会から実施をするということで、こちらについても決定していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、その内容についてですけれども、今後の検討会でこのアンケート内容については協議をしていきたいと思いますが、先ほど日本共産党市議団さんからもありましたが、その置く場所だとか中身等々につきましても別の今後の検討会でまた協議をしたいと思いますが、御協議をお願いしたいというふうに思います。

それから、これからの検討項目について議会改革を進めていくということになりますけれども、その上で皆様と3点確認をしたい点があります。全員協議会の位置づけについてがまず1点、それから市民との意見交換の手法について、これが2点目、ICT化の推進に係る実務者会議のメンバーの選出について、この3点について各会派の御意見を伺いたいと思いますが、この件については次回の検討会で協議し、決定をしたいと思いますが、各会派にお持ち帰りをいただいて御協議をお願いしたいというふうに思います。

そして、先ほどちょっと各会派で意見が出ましたけれども、投票率の向上という部分の正副議長案についての中で同日選挙の検討ということについて、日本共産党市議団さんからは、既に検討が終わったことではないのかということ項目を入れることについては疑問が残るといふ御意見がありましたのと、会派市民さんからは、この同日ということの括弧書きは不要ではないかという御意見もいただきました。

この議会改革につきましては、各会派の皆さんからそれぞれ意見を出していただきながら、この項目についても決めていきたいわけですが、意見がそれぞれあるかと思いますが、この点について再度項目、今日本共産党市議団さんや会派市民さんからあったように同日選挙については記載をするしない、もしくは改選によって議員のメンバーも変わっている、もしくは投票率が若干前回と比べて下がったとか、改選前と若干違う事象も出てきているということも一方ありますので、そういったことも踏まえて、改めて各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長(矢嶋翼) 前回、多数決という形で、あのときは26名ですか、2名欠員がありましたので26名で皆さんの意見を、自由な意見の中で、うちの会派は意見が割れましたので、それぞれ自由でいいということで自由投票の中で同日選挙は5分の4以上の賛同がなければということで否決をされたわけですね。

ですからうちの会派は意見が割れましたけれども、僕個人で、例えば国会議員の皆

さんに、やはり国会が決め、国会議員さんの仕事だと僕は思っています。このずれているのは全国的な課題です。ですので、ぜひ国会議員さんにずれている市町村に対して特例法案をつくっていただいて、きちんと4月に統一地方選挙が全国的にできるように、そちらのほうを働きかけたほうがいいのではないかとこの考えの下に意見を上のほうに出していただいたということでございますので、もしあれであれば、さらに地元の国会議員さんにきちんと働きかけて、早くそういった特例法案をつくっていただけないかと、皆が統一して選挙がやれるようにというところを僕は力を入れるべきではないかなと思っていますので、この中であまり議論しても意味がないのかなと思っていますので、ですからやはり優先するのは投票率の向上ですよね。なぜ投票率が下がっているのかという、それをきちんと分析して、そちらのほうに重点を置いたほうが、僕個人のあれはそういうふうに思っております。

現実には市長選がなかったですね。現実問題として、昨年、例えばこの同日が通ったとしても市長選は行われなかったのです。ですから市長選との同日は実現しなかったのです。もし通ったとしても市長選は結局無投票でした。そういった結果もあるわけですので、市長選を、ずれている市長選をこちらに、統一地方選に合わせていただくと、そちらの働きかけもすべきでないかと思っておりますので、できれば分けて議論していただければなと思っています。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 投票率ですね。

●議長（金澤俊） 投票率の向上の中の同日選挙という項目をどうするかということです。

●公明党議員団団長（池田謙次） うちとしてはどうか、多分投票率の向上にというメインタイトルからすれば決定打というのがないので、うちは全然入れていても構わないという。ただ同日選挙がメインではなくて、先ほどもあったけれども、それも一つの要因ではあるのかなと思いますから、ただこれが決定打ではなくて、そのほかにもいろいろな議会のものとか私たちが例えば魅力がないのか、いろいろなそういうことも含めて議員の勉強が足りないのか魅力がないのか、そういうことも含めて大いに1回やらないと、それは幾らここで市民に開かれた議会といっても、それは関心がないのでは意味がないので、これも含めて、固執するわけではないですけれども、その決定打がないので1項目であってもいいのかなというふうに思います。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） タイトルの話なのかなと思うのですけれども、聞いていて、やはり同日選挙の検討などというふうにここには書かれています。ですか

ら我々としても同日選挙の検討を軸にこの投票率の向上に向けて取り組んでいくというスタンスではありませんので、括弧書きで特にこういうことも含まれているよというふうな理解をしているのです。ですから、これを除いたりとかということもあるのかなとは思いますが、投票率の向上に向けての取組は様々に議論していくということの理解をしているので、全くこの件に関しては問題ないのではないかというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 残してもいいということですね。

●民主クラブ代表（松尾省勝） はい。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 今回の統一自治体選挙、苫小牧市議会議員選挙が過去最低の投票率だということであります。ここに記載されている括弧書きというのも、これは投票率向上に向けて外せない検討課題だというふうに思っておりますので、様々投票率を上げる方策というのはあるのだと思いますが、その中の一つとしてここに記載されてることについては、私どもは一切違和感はないというところです。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さんは先ほど聞きました。見解は変わらないですか。何かお話ししたいことがあれば。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 見解は変わりません。投票率を上げることの意義というのは大変私も思っていますし、必要性も思っています。ただそれは、多分今国政選挙も含めて、政治離れだとか国民市民の関心が低下してしまっているという状況が投票率に見えてきているのだと思うのです。ですので、市長選挙と市議選挙を一緒にやって若干は上がるかもしれないのですけれども、そもそも政治離れとか無関心さとか、あと投票に行っても暮らしなんかに影響ないよねみたいな、そういう考え方の人たちに訴えることにはならないと思うのです。

それよりも、市議会として今どういうことが議論されているのか、それがどうやって市民の暮らしに直結していくのか、国政も含めてですよ、そういうことを知ってもらうことと、あと暮らしに必ずつながっているのがこの市議会での議論だということも発信していくことが投票率を上げていくことだと思いますので、私は投票率を上げる取組の中に同日選挙というのは、全く無意味だとは言いませんけれども、それよりももっとやらなければならないことが、先ほど言ったように議会基本条例で、具体的にどうやって市民の皆さんに身近な市議会ということを見せていくのかということに一番ウエートを置いていくべきだと思っておりますので、今同日選挙の検討という

のは国に苦小牧市議会としての要望を出しておりますので、私はそれで一旦終わっている話だということには変わらないという考え方です。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 私は投票率向上に向けての取組をする、これは賛成しますし、今回の投票率も低かったというふうに思いますから、それはしなければならぬことだろうと思います。ただ、上げればいいのかということ、そうではないというのは先ほど申し上げたような例があるということでもあります。

そういう中で、やはりこの同日選挙をすることによって、市長選と一緒に上がるよねというような安易なものではないのではないかなど。やはりもっともっと議論を深めて、我々議員も市民の方々に信頼されて負託されるようであればならぬし、そういう中で選挙そのものもお金をかけないでやれるという、そういう選挙も目指さなくてはならない、そういういろいろなことを考えるべきであって、ここに同日選挙というのをうたうことは私は違和感があります。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 私はぱっと見て、ぱっと見たときに投票率の向上に向けての、などと書いてありますので、いろいろな項目というか案件があると思うのですが、同日選挙もその中の一つだなという認識でした。ですので、ここに文言を載せる載せないについては、私の初めの最初の認識、などと書いてありますので、それにもまだまだいっぱいたくさんあるなという認識でしたので、これは各皆さんのその取り方の印象というのがあると思いますので、私はいろいろある中のその同日選挙というのが一つだなという認識でした。ですので、そこまで入れる、書く書かないというところに重きを持っていなかったもので、そういう意見であります。

●議長（金澤俊） 今各会派の意見、それぞれお聞きしましたが、それぞれの意見があるというのも分かりました。ただ、投票率の向上ということについてはやはり取り組まなくてはいけないだろうというのが大半の御意見だったと思います。そして同日選挙につきましても、この議論が一旦終了しているという御意見もありますが、再度議論していかなければいけないというこういう意見もありました。

それで今私どもから正副議長案として示した項目をどうするかということでこの話をしておりますので、今副議長とも若干お話をしたのですが、この投票率の向上に向けての取組についてというものの中には、この括弧書きの同日選挙の検討などというものも、同日選挙の検討以外も含めた様々な投票率向上のための検討項目というのはこれから皆さんとまた議論していかなくてはいけないと思うのですけれども、そのも

のの中に同日選挙の検討も含まれるということで考えれば、投票率の向上に向けての取組についてという部分にこの項目はとどめておきながら、ただ同日選挙の検討をすべきだという意見もありましたので、そういう前提で、この括弧書きの部分は除いて正副議長案としてまとめさせていただければという、これは1つ提案なのですけれども、この点について各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 今おっしゃったのは。

●議長（金澤俊） 括弧書きの部分は除く形で、ただ中身的には含むということで進めてはどうかという提案です。

●新緑会長（矢嶋翼） はい、賛成です。

僕も同日にやると投票率が上がるのだという根拠がないので、同日にすると本当に上がるかどうかというのは僕も実際疑っているのです。上がるか上がらないか分かりませんよね。ですから、僕としては、もし省いていただけるならありがたいです。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 構わないですよ。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私どもも構いません。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） どちらでも結構ですから、今の議長提案に賛成をいたします。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 抜いてくれるのはとてもありがたいのですが、議論をすることの前提で、ただ文言だけ消すということだと思いのです。そこにちょっとやはり違和感がありまして、どちらにするかと決めないと、1人で反発しているわけにもいかないので、ただ、意見としてはそういう議論が残っているということは若干不満を残しつつも、皆さんと足並みをそろえるのも重要だと思いますので、大人の判断をいたします。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 私どもで省いてほしいということを通していただいたことは大変ありがたいと思います。選挙も終わってメンバーも変わっていますから、新たな議論をするということは、結果がどうなるかは別として、それはそういうことでいいのではないかというふうに思います。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 議長の提案に賛同いたします。

●議長（金澤俊） それでは、ただいま各会派の御了承をいただきましたということで、この括弧書きの部分については削除いたしますが、今後も具体的中身としては検討する余地を残した形で進めさせていただきたいというふうに思います。

ただいま検討項目については決めさせていただきました。さらに、検討の優先順位につきましては改めて各会派の御意見を伺うこととしておりましたが、さきの検討会におきまして、また先ほどの各会派の御意見もありましたが、同時並行でそれぞれ行うという御意見が多かったことから、やれることから取り組む、スピード感を持ってということを考え、特に優先順位をつけずに今期2年の議会改革に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

---

●議長（金澤俊） その他、皆様から何か御意見ございますでしょうか。

公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 今日の会議の中で、1つは実務者会議の設置は了解と、傍聴者のアンケートも9月に向けてはおおむね了解ということですから、次回に9月に集まるまで時間はあるわけですから、実務者会議の設置がオーケーであれば、もう各会派で人選くらいはして、次に集まるときに、そこに来てどうですかとまたやるのではなく、それは了解を取っているのであれば、先ほど言った、例えば副議長を座長にして各会派で1名出すということに皆さん了解であれば、名前を持って次回は来てほしいというのが1つと。

それとアンケートについても、できればいろいろな意見、うちもちょっと事務局に上げさせてもらいましたけれども、次回には正副議長案をちゃんと出して、それでもまかせてほしいなという、そうしないと進まないという、申し訳ないのですけれども、それをお願いしたいと。

●議長（金澤俊） ただいま公明党議員団さんから御意見をいただきました。できるだけ早く決定したものについては進めていくという視点から、先ほども皆さんにお諮りしましたが、まず実務者会議のメンバー等については次回の検討会で決定をできればと思っておりますが、そのような形で鋭意進めていただければというふうに、各会派での協議を進めていただきたいと思います。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） すみません、実務者会議なのですけれども、前にこの代表者ではなく全議員が参加できるような機会をということで、代表者以外の人選がふさわしいのではないかという声もあったと思うのですけれども、うち

の会派のメンバーを見るとなかなかちょっと難しいので、万が一代表者になっても構いませんかということを確認したいと思います。

●議長（金澤俊）　ただいま日本共産党市議団さんから皆さんお聞きしたとおりの御意見がありましたけれども、その場合はそういうことでよろしいですね。

改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏）　実は私も思っていたのは、代表者がその実務者会議のメンバーになってはいけないのかなと、そこまで会派に枠をはめるのかなというふうな疑問もありましたけれども、その後ちょっと考え直したら、ワーキンググループが提案をしたものを私ども検討会で受けるという形になっておりますので、そういう意味では提案する側と受ける側と一緒にってしまったら、これまたちょっとつじつまが合わないなということで、より多く議会改革に参画をしていただくと意味では、代表者以外の方を選んで、そういった不得意な方も理解をしながらワーキンググループで勉強していただいて提案をしていただくと、そういう考え方を持ってやられたらどうかというふうには思っていました。

●議長（金澤俊）　もう改革フォーラムさんにまとめていただきましたけれども、各会派でもそれぞれ議員の得手不得手もあると思いますけれども、今言われましたように、なるべく多くの方に議会改革に関わっていただきたいと思いますので、やむを得ない場合はしょうがないと思いますが、基本的にはそのような形で進めていただきたいというふうに思います。

途中になりましたけれども、実務者会議のメンバーについてはそのような形で次回の検討会で決めたいと思います。それからアンケートにつきましても正副議長案、大変厳しい御指摘をいただきましたので、次回には必ず示させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊）　その他、皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

---

●議長（金澤俊）　以上で、本日の議会改革検討会を終了いたします。

お疲れさまでした。

---

散　　会　　午後0時02分

以　上。